

事業所向け（改善、工夫していること） 放課後等デイサービスマーガレット

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室当スペースとの関係で適切であるか	6			適切であると考え。他福祉施設を利用しながら活動できるよう計画している。
	②	職員の配置数は適切であるか	6			保育士がいることで、違う意見等、工夫点があり業務改善になると考える。現在募集中。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	6			玄関・トイレ等にすりがついている。玄関の段差の工夫ができていて転倒防止になっていると考える。
業務改善	④	業務改善を進めるための、PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	6			目標設定、振り返りはスタッフ全員で行っている。いろいろな考え、意見を共有していく。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		6		今年度からアンケートを実施し、業務改善に向け取り組んでいく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		6		今後、公開していくようにしていく。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	6			第三者による外部評価を頻回に受け、業務改善につなげていく。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6			安心して研修参加できる環境、情報共有することで業務改善に繋げていく。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			アセスメントの活用の充実に努める。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6			アセスメントツールの見直しをしていく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6			スタッフ全員の意見交換ができ、安心、安全な計画立案ができる。環境調整を図る。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6			保護者会・児童送迎時に保護者の意見を聞き、1日利用時は児童が楽しめて、安全にマーガレットを利用できるように工夫していると考え。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6			落ち着いて対応できるよう、余裕ある計画に努めることで、きめ細やかな支援へ繋げていく。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			児童の個々を捉えた関わりができるように、情報の共有をおこない具体的に指示伝達に努めていく。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認しているか	6			目標を達成できるよう打ち合わせを継続していく。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6			当日に全員での打ち合わせができていないが、翌日開始前に気づいた点等について共有している。今後も継続して支援に繋げていく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6			記録はSOAPで行っている。継続していく。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6			モニタリングはできていると考える。期間の調整（保護者、相談支援事業所等）が難しい。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	6			まだまだ努力が必要。

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	6			必ず参加できる職場環境を作っていく。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	6			できていると考える。今後も継続して連携を図ってきたい。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	6			協力医師との連携、かかりつけ医の把握は常に行い、緊急時の対応マニュアルに沿って行動できるよう日頃から声かけをしている。 今後も継続していく。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	6			連携に今後も務めていく。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6			情報提供することになっている。今後も継続していく。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6			研修、助言の機会ある時は率先し参加できるように環境業務調整を行っていく。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6			こども食堂などに参加することで活動の場となると考える。今後も継続して参加していく。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	6			参加できていると考える。今後も継続して参加していく。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6			毎日の送迎時に必ず保護者と話す時間を確保し、問題解決に努めていると考える。 情報交換の場、時間の確保に努める。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		6		ペアレント・トレーニング研修に参加し、スタッフの意識向上を図る。 伝達を行い、共有の機会を作っていく。
保護者への説明責任等	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6			行えていると考える。一方的な説明に終わらず、意見を聞く姿勢を常に持てるよう、スタッフの体制づくりに努めていく。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6			解る範囲内で行い、振り返り等しながら次の行動へ移れるよう心掛けている。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6			保護者会等の開催により、同じ悩みを供給できる時間となっていると考える。継続支援していく。